

1 サンザシ

2 生薬の性状及び確認試験の項を次のように改める。

3 生薬の性状

4 1) *Crataegus cuneata*に由来 本品はほぼ球形で、径8～14
5 mmである。外面は黄褐色～灰褐色を呈し、細かい網目状の
6 しわがあり、一端には径4～6 mmのくぼみがあって、その
7 周辺にはしばしばがくの基部が残存し、他端には短い果柄又
8 はその残基がある。真果は通例5室でしばしば5個に分裂す
9 る。この分果の長さは5～8 mm、淡褐色を呈し、通例、
10 各々1個の種子を含む。

11 本品はほとんどにおいがなく、わずかに酸味がある。

12 本品中央部の横切片を鏡検(5.01)するとき、最外層は比
13 較的厚いクチクラ層でおおわれた表皮からなる。クチクラは
14 表皮細胞の側壁まで入り込みくさび状を呈する。表皮細胞及
15 びその直下の2～3層の柔細胞中には黄褐色～赤褐色の内容
16 物が認められる。その内側は柔組織からなり、維管束が散在
17 し、単独又は2～数个集まった石細胞が多数出現する。シュ
18 ウ酸カルシウムの集晶及び単晶が認められる。真果の果皮は
19 主として厚壁細胞よりなる。種子は種皮でおおわれ、その内
20 側に外胚乳、内胚乳、子葉を認める。真果の果皮の厚壁細胞
21 中及び種皮の細胞中にシュウ酸カルシウム単晶が認められる。
22 2) *Crataegus pinnatifida* var. *major*に由来 本品は1)と同
23 様であるが、大形で、径17～23 mm、外面は赤褐色でつや
24 があり、斑点状の毛の跡が明瞭である。一端にあるくぼみは
25 径7～9 mm、分果は長さ10～12 mm、黄褐色を呈し、通例、
26 成熟した種子を含まない。

27 本品は特異なおいがあり、酸味がある。

28 本品の中央部の横切片を鏡検(5.01)するとき、本品は1)
29 と同様であるが、柔組織中の石細胞は少ない。

30 確認試験

31 1) *Crataegus cuneata*に由来 本品の粉末1.0 gにメタノール
32 5 mLを加え、30分間振り混ぜた後、遠心分離し、上澄液
33 を試料溶液とする。別に薄層クロマトグラフィー用ルチン1
34 mgをメタノール20 mLに溶かし、標準溶液とする。これら
35 の液につき、薄層クロマトグラフィー(2.03)により試験を
36 行う。試料溶液及び標準溶液10 µLずつを薄層クロマトグラ
37 フィー用シリカゲルを用いて調製した薄層板にスポットする。
38 次に酢酸エチル/2-ブタノン/水/ギ酸混液(5:3:1:1)
39 を展開溶媒として約10 cm展開した後、薄層板を風乾する。
40 これに希硫酸を均等に噴霧し、105℃で5分間加熱した後、
41 紫外線(主波長365 nm)を照射するとき、試料溶液から得た
42 数個のスポットのうち1個のスポットは、標準溶液から得た
43 緑色の蛍光を発するスポットと色調及び R_f 値が等しい。ま
44 た、 R_f 値0.5付近に1個又は2個の標準溶液から得たスポット
45 と同様の緑色の蛍光を発するスポットを認める。これらのス
46 ポットは放冷するとき徐々に消失し、再加熱により再び発光
47 する。

48 2) *Crataegus pinnatifida* var. *major*に由来 本品の粉末
49 1.0 gにメタノール5 mLを加え、30分間振り混ぜた後、遠心
50 分離し、上澄液を試料溶液とする。別に薄層クロマトグラフ
51 ィー用ヒペロシド1 mgをメタノール20 mLに溶かし、標準
52 溶液とする。これらの液につき、薄層クロマトグラフィー

53 (2.03)により試験を行う。試料溶液及び標準溶液10 µLずつ
54 を薄層クロマトグラフィー用シリカゲルを用いて調製した薄
55 層板にスポットする。次に酢酸エチル/2-ブタノン/水/
56 ギ酸混液(5:3:1:1)を展開溶媒として約10 cm展開した後、
57 薄層板を風乾する。これに希硫酸を均等に噴霧し、105℃で
58 5分間加熱した後、紫外線(主波長365 nm)を照射するとき、
59 試料溶液から得た数個のスポットのうち1個のスポットは、
60 標準溶液から得た緑色の蛍光を発するスポットと色調及び
61 R_f 値が等しく、このスポットの直上に同様の蛍光を発する1
62 個のスポットを認める。これらのスポットは放冷するとき
63 徐々に消失し、再加熱により再び発光する。
64 -----

65 9.41 試薬・試液の項に次を追加する。

66 ルチン。薄層クロマトグラフィー用 $C_{27}H_{30}O_{16}$ うすい黄色
67 ～黄緑色の結晶又は結晶性の粉末で、においはない。メタノ
68 ールにやや溶けやすく、エタノール(99.5)に溶けにくく、水
69 にほとんど溶けない。

70 確認試験

71 (1) 本品のメタノール溶液(1→100000)につき、紫外可視吸
72 光度測定法(2.24)により吸収スペクトルを測定するとき、
73 波長255～259 nm及び356～360 nmに吸収の極大を示す。

74 (2) 本品につき、赤外吸収スペクトル測定法(2.25)の臭化
75 カリウム錠剤法により測定するとき、波数1655 cm^{-1} 、1600
76 cm^{-1} 、1507 cm^{-1} 及び1363 cm^{-1} 付近に吸収を認める。

77 純度試験 類縁物質 本品10 mgをメタノール2 mLに溶かし、
78 試料溶液とする。この液1 mLを正確に量り、メタノールを
79 加えて正確に20 mLとし、標準溶液とする。試料溶液及び標
80 準溶液2 µLずつを、「サンザシ」の確認試験1)を準用し、
81 試験を行うとき、試料溶液から得た R_f 値約0.3の主スポット
82 以外のスポットは、標準溶液から得たスポットより濃くない。

83
84